

教会の建築（外部）



大曾教会

- ① 鐘塔・尖塔
- ② キリスト像・マリア像
- ③ 外壁
- ④ 薔薇窓

① 鐘塔・尖塔

鐘塔：鐘をつるした塔。

尖塔：細長く先がとがった形の屋根をもつ建物。ゴシック建築の教会に多く見られる。



水ノ浦教会



青方教会

<水ノ浦教会>

海を見下ろす小高い丘の上に立つ白亜の教会は、木造教会としては最大規模を誇る。青空にそびえる三角の尖塔は実に美しく、朝昼夕のアンゼラスの鐘の音は心を安らげる。

② キリスト像・マリア像



井持浦教会キリスト像



井持浦教会マリア像



中ノ浦教会マリア像

<井持浦教会>

本場ルルドの聖母像を求めて洞窟に収め、奇跡の泉から霊水を取り寄せ洞窟横の泉水に注ぎ入れた日本最古のルルド。ルルドはフランス南西部の小さな町で、世界的巡礼地。1858年、少女ベルナデッタの前に現れた聖母マリアが示した場所に湧き出でた泉のこと。同時代に来日したパリ外国宣教会の神父様方が敵堂した教会には、それを模した小さな泉がある。

③ 外壁

部材は木造、レンガ造、石造、鉄筋コンクリート造など、多様で教会建築の移り変わりがわかる。



頭ヶ島教会【石造】
西日本で唯一、全国的にも珍しい石造りの教会。島内で切り出した石を積み上げた重厚感溢れる外観が特徴。



大野教会
【ド・ロ壁+木骨トラス】



江袋教会【木造】
1882年に創建され、使用されている木造教会では県内最古の教会。



旧五輪教会【木造】



大曾教会【レンガ造】
大正時代には、レンガ造りの教会が多く創建された。レンガの積み工法には、イギリス積み、アメリカ積み、フランス積みがありそれぞれ違った表情をみせている。



黒崎教会【レンガ造】
1920年の黒崎教会が長崎県内では最後のレンガ造。高さや荘厳さを兼ね備える教会らしい建造物。



紐差教会【鉄筋コンクリート造】
長崎県では1929年の紐差教会が最初。現代の主流で自由な建築デザインが特徴。

④ 薔薇窓

正面入り口に円形窓を作り、ステンドグラスを張ったものを、薔薇窓という。

教会建設の基本スタイル

ステップ1

古代ローマ時代、裁判や集会などがおこなわれたバジリカ（ギリシャ語で大広間という意）という単純な柱廊がー



ステップ2

やがて回廊となりー



ステップ3

そして回廊の中庭を屋根で覆い玄関を設ける。これがバジリカ式聖堂といわれる教会建築の原型のひとつ。

